

# 研究結果報告書

## 研究結果

黎庶昌は甲午戦争（日清戦争）以前に第二代・第四代清国特命全権公使として二度日本に駐在した外交官で、本研究は彼が日本に残した資料を蒐集かつ研究するものである。本研究を通じて、下記の結果がわかった。

第一、黎庶昌が書いた詩23点、文16点、手紙44通、筆談記録3万字等、豊富な黎庶昌関連の資料を蒐集した。

第二、上記の資料の大半は日本の国立国会図書館や早稲田大学図書館等に散在して、黎庶昌本人の文集や中国側の資料にも収められていないので、中国側の資料不足を補い、黎庶昌関係資料の散逸を防止する目標が達せられたと思われる。

第三、黎庶昌の詩文からは、彼が日本滞在中に行った文化活動を伺うことができ、筆談記録からは当時の外交活動を知ることができ、これらの資料は、明治前期の中日文化関係・外交関係の研究に大事な基礎資料を供することができると思われる。

第四、上記の黎庶昌の資料は、ほとんど日本と関連のある内容で、詩はすべて日本人と交流を行った際の唱和詩であり、文は明治日本の文化人の著書のために寄せた序文・跋文ばかりである。また、手紙は修史館員宮島誠一郎宛のものや、『古逸叢書』出版のために修史館総裁・太政大臣三条実美宛の書簡であり、筆談記録は、黎庶昌と宮島誠一郎との間に行われた資料である。黎庶昌は歴代の清国公使の中で、もっとも親日的な外交官であり、明治時代の官僚や文人とは実に多彩な文化活動を行ったといわれているが、上記の資料からもこの点を立派に立証することができたと思われる。

## 研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）

黎庶昌の故郷遵義市政府編『黎庶昌全集』に編集され、上海古籍出版社より2012年に刊行される予定。